

各大学 OB 会関係者との会合

1999年9月23日 名大豊田講堂第一会議室

出席者

林良嗣名大ヨット部長（名大）

加藤名大専門職員（名大）

市川隆（名城；中部学生ヨット連盟会長）

二村種義（愛大 OB）

稲葉正吉（愛大 OB）

小池伸（名大 OB）

大橋郁夫（名大 OB）

湯浅正典（名大 OB）

新美忠邦（名工 OB）

古川裕之（名大 OB）

薮谷智規（名大 OB）

司会 小池

林：これまでの経緯

○常滑でヨットをする上での問題点

- ・空港島の500m以内の立ち入り規制
- ・工事の土運船の航行
- ・三重からの高速艇が頻繁に航行

○これまで、愛知県、常滑市、蒲郡市と交渉

○三谷港の宿泊施設の運用失敗により、合宿所形式の施設建設は困難

○県が海陽ヨットハーバー内に艇庫を建てて、それを利用すればどうかという話が提案されたが、県の財政破綻宣言により頓挫

○代替案として、県が仮設の施設を作り、財政が潤ってきたら施設を拡充（扉、外壁の補強）させていくという提案があったが、賃料が今の2倍になるために各大学が辞退

○県から蒲郡に交渉相手を変更．ハーバー5km以内に提供していただく用地がないのか交渉．現位置（海陽ヨットハーバー北）に確保

○これまでの詳細な議事録は、各大学、県、市、企業にすべて送付

加藤：資料の説明

- 名大、愛工(学生の意向)、名学、南山、名城は土地の借用を希望
- 愛教、愛大は緊急的に移転の必要はないものの艇庫を持つ意向も有り
- 愛学、南山は移転費用次第での判断
- 予算は12 or 13年度予算での編成となるだろう（国立大）
- 艇庫からハーバーまで距離があるので艇庫とハーバー内のバースの 併用の可能性（長期の合宿時等）
- 市より賃貸される土地は、インフラ（上下水道、電気）が北辺部（ハーバーから遠い方）に集中
- スプリンクラーをつける予定があり、市有地に上水道は張り巡らされる予定
- 下水道は北東角に有るのみ
- 土地賃借料
 - 各大学毎の契約の場合 200m³ 540,000 円／年
 - 中部学連一括契約 200m³ 270,000 円／年
- 常滑新港と比較して余分にかかる諸費用は以下の通り
 - ・インフラ（上下水道、浄化槽設置、建築審査料）
 - ・海陽ヨットハーバーレスキュー係留料（愛教大の実績：17 万円/年）

各大学 OB の質問および意見

- よりハーバーに近いところもしくは海陽ヨットハーバー内に艇庫はに建設できないか？
- 各 OB 会に資金援助できないか働き掛けてほしい。資金援助の仕方も、建設費に援助したら良い大学と、運用費に援助したら良い大学とがある。
- 常滑新港移転時と、蒲郡移転時の諸費用の参照が出来るような見積もりが欲しい
- レスキュー停泊費用が蒲郡の場合高い。旧蒲郡ヨットハーバーでは停泊料は無料だった。交渉の余地が有ると思われる。
- 各大学と、OB 会との連携が大切

今後の各市、県との交渉期限

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| 1. 蒲郡および県への照会 | 9／17、回答9／20 |
| 2. 各大学の回答 | 10月上旬 |
| 3. 各大学の意向を蒲郡市へ連絡 | 10月下旬 |
| 4. 各大学は土地借用したい旨を蒲郡市に対して文書提出 | 11月中旬 |
| 5. 蒲郡市の回答 | 12月中旬 |
| 6. 常滑市への回答 | 12／20 |